
とあるリリカルな転生者

トーマ&リリィ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とあるリリカルな転生者

【Nコード】

N6945X

【作者名】

トーマ&リリイ

【あらすじ】

普通な生活を送っていたHappy endが大好きな少年は、子供を助けて死んでしまった！
それを見ていた、神様によってリリカルな世界に転生をすることに！
色々な能力をもらった少年は一体どんな物語を織り成すのか

これは処女作です。下手なので、いろいろ教えてください

プロローグ

「ふあ〜、いい天気だな」

朝、いつもの様にベッドから起きた俺はカーテンを開けて呟いた。

「今日は、何をするかな？・・・そうだ、確か今日は、集めてる漫画の発売日だなあ…よし、買いにでも行くか」

本を買いに行くことにした俺は、朝ごはんを食べて家を出発した。

「それにしても、今日はホントに、いい天気だな。こんな日は何か良いことでもあるかもな。」

本屋に着いた俺は、本を買って家に帰ろうと歩いていて、ふと道路見たら、ボールを追いかけてきた子供が道路に飛び出していた。

「なっ、あ、危ねえ！」

見てみると、車が向こう側から突っ込んでくる。このままじゃ、あの子供は死んでしまう！

気づいたときには体が動き出していた。そして、道路に飛び出して子供を突飛ばした、そこで彼の意識はなくなった

プロローグ2（前書き）

いや〜さっそくだけどネタがなくなってきました・・・
まだプロローグは続きます。

プロローグ 2

「ん、ここは・・・どこだ？」

気が付くと、俺は真っ白な空間にいた。

とてつもなく広い空間なのか、白い空間は見渡す限り何処までも続いていた。

「まあ、いつかどこでもいいしとりあえず眠たいから寝るか」
と言って俺は寝ようとしたら・・・

「おい、起きろアホ」

といきなり罵倒されながら起こされた。

俺は起こされた方を見ると、見知らぬ幼女がいた。

「・・・誰だ？あんた」

と俺は幼女にたずねた。

「ん？私か？私は・・・神だ」と言って俺を見てきた。

（なんて・・・痛々しい子供なんだ。）

と俺が思っていたら

ゴンッ

「痛ってえええええ！」

「痛々しいとか言うからだ！」

（な、何でだ？何でこいつ俺が考えてることが分かったんだ？それに、今の一撃もなんて重く鋭い一撃なんだ、もしかして幼女ではなく幼女の皮を被ったゴリラなのか？）

「私はゴリラなんかじゃない！」

（まただ、俺の考えてることが向こうに筒抜けだ・・・まさか本当に神なのか？）

「だから、私は神だと言ってるでしょ」

と（自称）神は自信満々に俺に向かって言ってきた。

プロローグ2 (後書き)

・すみません、m(| |) mまだ、プロローグは終わりませ
ん。プロローグは多分次ぐらいで終わるかと思っています

プロローグ3 (前書き)

今回の話は結構無理やり感があります、すみませんm()m
それではどうぞ

「ねえ、落ち着いて、お願いだから、落ち着いて頂戴、話が進まないでしょー」

数分後

「はあはあ、や、やっと落ち着いたみたいね」

「はい・・・落ち着きました」

「で、あなたが転生する世界だけど「ちよつと待て」・・・何よ？」

「何で俺が転生するんだ？よくわからないけど、転生なんてことをするなら理由があるだろ？」

「それは・・・実はあなたが助けた子供はあの車にほぼ確実に死ぬ予定だったの、でもあなたは自分の人生を潰してまであの子供を助けた、それにあなたの人生は良いことしたわりに、不幸なことばかりで可哀想だったからよ」

「そうか・・・ところでどこの世界に転生するんだ？」

「あなたには『リリカルなのは』の世界に逝ってもらっわ」

「・・・『リリカルなのは』か・・・別に良いけど・・・原作の悲しみを消したいから・・・なんか能力とかくれるか？それと原作を破壊したいけどいいか？後『いく』の字が違うぞ」

「ふふ、優しいのね？原作については壊してもいいわ、行ってもらう世界は『リリカルなのは』の世界に限り無く近い平行世界だから、能力はあなたが欲しいのと言って頂戴」

「ありがとう、別に優しいわけじゃないさ、ただの自己満足さ……」

（そうさ、あの時だって俺の自己満足のせいであいつは……くそつ過去を後悔しないって決めたんだ、今さら後悔してどうするんだ……よし、考えるはやめるか）

「そう？まあいいわ、能力はなににする？」

「じゃあ、金色のガツシユに出てくる呪文、アンサートーカーの能力、ドラクエとテイルズに出てくる魔法も頼む」

「分かったわ、後とある魔術の禁書目録に出てくる技と私の好みの能力もつけとくわ」

「そうか……ありがとう」

「ガツシユの呪文、テイルズとドラクエの呪文はあなたの魔力を媒体にして使うからね、魔力に関しては、あなたの生前のリンカーコアを使うから」

「おい、ちよつと待て、今リンカーコアって言ったな？俺にリンカーコアなんて有ったのか？」

「ええ、有るわよ、しかもあなたとんでもない魔力を持っているわよ」

「だったら、なぜ俺は前世で魔法が使えなかったんだ？」

「それは、あなたの世界が魔法を認めなかったからよ、魔法が世界から認められなかったら魔力が有っても魔法は使えないわ、大体魔法があるなんて知らなかったでしょ？」

「確かにそうだな・・・分かった・・・よし、じゃあそろそろ連れてってくれ」

「待って、まだデバイスとあなたの名前を決めてないわ」

「そうだったな、じゃあデバイスはユニゾンデバイスで頼む」

「分かったわ、名前はどっする？」

「名前はおんたが決めてくれ」

「分かったわ、じゃあそろそろ行く？」

「ああ、そうするよ」

「そう、じゃあ逝ってらっしゃい」

「え、ちょっとまって・・・うわっ!」

そういうと突然、俺のいた場所の真下に穴が出来て、俺は落ちていった

「はあ、やれやれ」

プロローグ3（後書き）

えっと、アンケート？というか主人公の名前とデバイスの名前を募集しています・・・後ご意見や感想また、指摘や誤字の訂正などをしてくれるとありがたいです これからも、よろしくです

現状の確認と意外な事実？（前書き）

遅れました、第4話です、どうぞ

現状の確認と意外な事実？

「ん、ここは・・・」

気が付くと、俺は青空を見ていた

「あ、起きた」

声が聞こえた方を見ると、黒い綺麗な髪の女の人がいた。

「・・・は？誰だ？お前」

「私はあなたのデバイスのソラよ」

(・・) (エツ・・？エエエ) (。(エエエ

勝手に決めるとは言ったけど、まさか人型デバイスだとー！
？

「あっ、そうそうあなた宛に手紙がポケットに入ってたから渡すわ」と言っ
て手紙を渡してきたソラから手紙を受け取った俺はさっそく読んでみた

「あなたが手紙を読んでいるということは、無事に送れたみたいね、えつとあなたはソラと二人暮らして言うことになってるから、後お金は手紙の中に通帳が入ってるからその中にあるわ、後家の住所も入ってるわ・・・まあこのくらいかしら？」
他に聞きたいことが有ったら、電話してね」

・・・まあ、なんつうか適当だな・・・手紙を読んだ俺の感想はそんなかんじだった

手紙の中を見てみると、家の住所と神様のメアドと電話番号、通帳が入っていた・・・

さっそく通帳の中身を見た俺は驚いた、なんなんだ？この果てしない金額は・・・こんだけありゃあ、一生遊んで暮らせるだろ・・・

まあいいか、ないよりはあったほうがましか

とっ考えてたらいつの間にか、俺の前にいたソラが

「これからよろしくね、妹ちゃん」

と言った・・・

現状の確認と意外な事実？（後書き）

あーー主人公の名前が決まらない

というわけで、まだ主人公の名前を募集してます、主人公の名前は要望が無い場合は、友達と考えます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6945x/>

とあるリリカルな転生者

2011年10月30日03時15分発行